鈴木 其一「朝顔図屏風」より構成

22 後期講座のご案内

美術Ⅰ　火曜　10:30　新百合

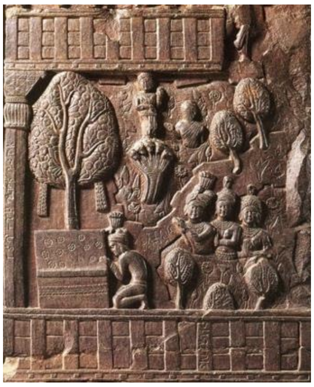
シルクロードの仏教説話図―インドから法隆寺玉虫厨子まで

　皆様は仏教説話図をご存知ですか？仏教の教えを絵画・彫刻などで表したものです。森美智代先生に楽しくじっくりと絵解きをしていただきます。先生のご専門は中央アジアの仏教美術、特に石窟美術で、北京大学留学中は１年の半分は新疆や中国北方の石窟寺院遺跡の調査の旅だったそうで、貴重な画像や生のお話を伺えると期待しております。

　仏教美術のルーツであるインドからシルクロードをたどり、終着点の日本、法隆寺への長い旅をご一緒にいかがでしょうか？

　美術Ⅰ、今期は目先を変えて、東洋美術の影響から日本の仏教美術に迫りたいと思っております。皆様のご受講をお待ちしております。

（世話人代表　河野千秋）



エーラバトラ龍王の帰仏
インド/紀元前 2～1 世紀

「阿闍世王の悶絶」部分
中国新疆ウィグル自治区
クチャ　６世紀頃

音楽Ⅰ　木曜　10:30　新百合
音楽Ⅱ　木曜　14:00　新百合

音楽Ⅰ　「歌曲の楽しみ」

　さあ、愈々梅津時比古先生のご登場です。先生は、そのご著書「≪セロ弾きのゴーシュ≫の音楽論」がまさにその好例ですが、文学／美術／音楽と「分野仕訳」された「作品」を、その「仕訳」に拘らず、広く人間の営みとして捉え、様々な視点からのアプローチを加え、作品の神髄を解き明かすという思考を重ねて来られました。そして今回、その関心は「歌曲」に向かいます。音楽と詩、そして人間の性（さが）を掘り下げていきます。

　また、コンクール等で活躍する学生の生演奏をも織り交ぜて講座は進みます。

音楽Ⅱ「ヨーロッパ　人々の生活と音楽と」

　中東欧の音楽家のこと、南米や東南アジアなど世界の民族音楽、さらに華僑の音楽や津軽三味線など、クラシック音楽の枠に留まらず、様々な音楽現象について考察を重ねてきた横井雅子先生。今回はヨーロッパにターゲットを絞り、音楽はどう広まっていき、地域独自の音楽がいかにしてメジャーとなっていったか、音楽の大衆化はどのようなプロセスを踏んだかを考察します。北欧の伝統音楽の生演奏を聴く演奏会も企画しています。

北欧器楽の演奏

世界史　金曜　10:30　プラザ

ハプスブルク〈帝国〉の歴史―ヨーロッパの深奥を探る

ヨーロッパにおいて、現在のオランダからウクライナ西部、ポーランドのガリツィア地方からイタリアのアルプス、アドリア海のクロアチアまで、広大な地域がハプスブルク君主国の一部としての歴史を持っています。ハプスブルク家は事績が確認できる時代から約 1000 年の歴史を持っていますが、私たちは纏まって学ぶ機会は少なかったと思います。

〈マリアテレジアとその家族〉

本講座では、中世におけるこの「国家」の始まりから説き起こし、近代的な民主主義や国民観に揺り動かされる 20 世紀初頭まで、歴史の魅力とアイロニーにあふれたハプスブルクの姿を紹介します。

ヨーロッパの主役であり続けたハプスブルク君主国を学ぶことで、私たちのヨーロッパに対する理解は一層深まるはずです。ご一緒に、『ヨーロッパの深奥を探る』旅に出かけませんか。皆様の受講をお待ちしています。

日本史　講座　火曜　10:30　プラザ
WS　火曜　13:15　プラザ

「大正デモクラシー」の光と影―民衆の視点、東アジアの視点から検証する

「原敬日記」を読み解く（WS）

日本史講座・WSは「大正デモクラシー」をテーマとして学びます。

WSでは、近代日本の政治家である原敬の日記を読み解きます。原が要職を歴任した期間は「大正デモクラシー」と呼ばれる戦前日本の転換点に重なっており、日記にもその時期に際会（さいかい）した原の率直な思いがつづられていて貴重な資料となっています。日記に登場する重要な事件をいくつか取り上げ、記述の背後にある社会状況や登場人物について討議し学びます。

また、講座では明治後半以降、日本の近代化の多くの矛盾を抱えた中で迎えた転換期に起こった「大正デモクラシー」の光と影の姿を民衆の視点、東アジアの視点からその意味を検証します。

今回「大正デモクラシー」について学ぶことは、今日国内外共に民主主義の危機に瀕し、新たな歴史の転換点に立っている私達にとって多くの示唆を与えてくれるでしょう。

文 学　講座　水曜　10:30　プラザ
WS　水曜　13:00　プラザ

日本近代小説の「名作」を読み直す（2）

近代文学を読む（WS ）

「血も涙もない」理系人が、66 才で文学とは無縁の会社生活を終り、少しは見聞も広げ、情緒も解る人間になりたいと、文学講座とワークショップを受講しました。

講座では、斯界第一人者の諸先生の蘊蓄（うんちく）を、半分も理解できない劣等聴講生でしたが、それでも効用はあって、いささか情味も解し、古い友人からは人相が少しよくなったと言われ、受講の成果と、しみじみ感じております。

ワークショップでは、熱意溢れる各講師のご指導のもと、課題図書を精読して、著者の思考や表現法に、新鮮なものを見出して感動し、また、同じ作品でも、人それぞれに、各自の生き方を反映した読み方があることを知って、人の世の奥深さを知ることが出来ました。

そして何より、ワークショップ終了後、仲間と居酒屋での「反省会」での盛り上がりに、あらためて「人生はよいものだ」と実感する至福の時を過ごすことが出来るのは、最大の「文学の功徳」と考え、感謝しております。（イラストと文：小嶋令史）

人間学　講座　木曜　13:00　プラザ
WS　木曜　15:00　プラザ

人間学再論―生老病死の思想

『般若心経』を読む・誦む（WS ）

私達は色々な関係の中で生き、性格の異なる各種の問題と向き合い、対処しながら生きています。その過程ではどのように考え行動すべき

かに悩み苦しむ場合も多々あります。

このような時には視点を変えて「人間とは何か」と問うてみるのも有効な方法です。

人間学講座のテーマは“生老病死の思想”です。テーマに基づき講師陣が自己の思索の結果を多様な視点から語ってくださいます。きっと思わぬ示唆に出会えると思います。

コーディネーターの竹内先生は“生・老・病・死は生きものとして「おのずから」のことであるが、人間は他の生きものと違って、それを「みずから」受け止め対応することができる。その「おのずから」と「みずから」のあわいに、多彩で豊かな人間模様がある”と述べておられます。

また、ワークショップでは古典を読み込み、講師の解説を媒介としながら受講生同士で活発な意見交換を行っています。来期のテーマは“『般若心経』を読む・誦む”です。

難しく考えずに、参加してみましょう。

政治・社会

講座　水曜 13:00　プラザ
WS　水曜 15:00　プラザ

デモクラシーと宗教

明治憲法体制と自己実現－「煩悶青年」と「新しい女」（WS）

政治と宗教、政教分離の原則によれば明確に分けられるべきですが、宗教は今日でも様々な形で政治に影響を与えています。さらに、デモクラシーを維持・発展させていく上で宗教が積極的な役割を果たすべきという考えもあります。来期の**講座**では、西洋と日本の歴史と現在を踏まえ、**「デモクラシーと宗教」**について学びます。講師に宇野重規（東京大学教授）、千葉眞（国際基督教大学名誉教授）、苅部直（東京大学教授）各先生他、新進気鋭の若手の先生方をお迎えする意欲的な講座です。

WS『明治憲法体制と自己表現－「煩悶青年」と「新しい女」』では、都築勉先生（信州大学名誉教授、日本政治思想）を講師に、日露戦争後の思想について読み進めます。啄木・鴎外・荷風の時代観、民本主義論争、三木清・阿部次郎らに見る時代・青年。平塚らいてう・山川菊枝など女性思想家。漱石の夫婦像。大衆が政治・社会に登場し、人間の個性が追求されると同時に、国家体制の整備が進んだ時代。1世紀前の営みは、現在の状況を知る手がかりでもあります。ぜひご一緒に。

信州大学名誉教授
都築 勉　先生

経 済

講座　金曜 13:00　プラザ
WS　金曜 15:00　プラザ

マルクスから読む現代の資本主義社会

人口減少社会のデザイン―2050 年、日本は持続可能か？（WS）

グローバルな行き過ぎた資本主義経済・社会に、経済格差の拡大や地球環境破壊、天然資源の枯渇等について様々な意見や批判がなされています。

経済講座では、コロナ以降内容を刷新し「社会的共通資本」「世界経済を読み解く」「高校の教科書で学ぶ経済学」等々経済を幅広く学んできました。

２２年後期経済講座では、**『マルクスから読む現代の資本主義社会』**をテーマに、**資本主義の本質を知るために、マルクスの『資本論』から、現代資本主義を学びます。**講師は神奈川大学的場昭弘先生を中心に、白井聡先生、佐々木隆治先生にご登壇をいただきます。

経済講座　的場昭弘 講師
40 年間研究を続けていてもまだまだマルクスを飽きることはありません。

経済 WS は、**『人口減少社会のデザイン―2050 年、日本は持続可能か？』**をテーマに、2018 年から人口減少に転じた我が国の将来について、コミュニティや情報化や格差や財政や環境、更には人類史や死生観の観点など、大きな経済の視座から考えていきます。

難しい経済理論ではなく、日常の我々の肌感覚や今までの経験を基に、どのようにして日本の持続可能性を担保していったら良いか議論していきます。　　　　　　　　（岡　毅一郎）

エクセレントⅡ　金曜　13:30　新百合

江戸時代の海運（海路）と陸運（街道）

エクセレント講座は「他文化の理解を目指す複合(総合的)講座」と位置付けられる講座で、私たちのエクセレントⅡ講座は「日本」 というテーマでその時代の文化や人びとの生活などを採り上げてきました。

歌川広重　東海道五十三次

2022年後期は東北学院大教授の齋藤義之先生のコーディネートの下に「江戸時代の海運と陸運」を学習する興味深いテーマです。

江戸時代は265年に亘る平和の下、各地の産物がはじめて全国に流通し豊かな和風文化が花開いた時代でこれを支えたのが全国に展開した海運・川運・陸運のネットワークでした。持続可能な社会の実現に大きく寄与したこの江戸時代のロジスティクスは現在の全国ネットワークの礎ともなっています。

各テーマとも多士済々の講師の方々に登壇いただきます。江戸の海辺を街道を一緒に楽しく「旅」してみませんか？

映像･メディア　金曜　15:00　プラザ

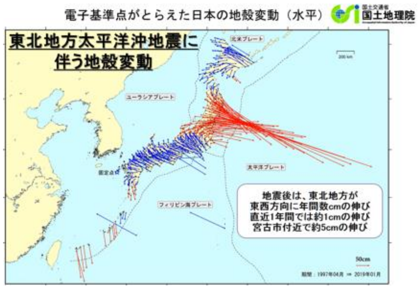
自作・名作を語る―「映像とメディア」の現場から

講座３０映像・メディア講座をご紹介致します。 この講座は、林勝彦先生のコーディネートにより、著名な講師のご登壇で、とても人気のある講座でしたが、今年の１月１４日に林先生が急逝され、代わりのコーディネーターの先生が決まらず、後期講座の開催が危ぶまれていましたが、太田猛彦先生や、竹内整一先生をはじめ、関係各位のご尽力により、後期講座の開催が決定されました。

特に、内４講座では、映画監督ご本人において頂き、ご自身の作品について語って頂きます。 その他の講座では、映像とメディアに関わってきたプロデューサー、ディレクター、評論家等、各専門の先生方に登壇して頂きます。 詳細につきましては、後期講座のご案内パンフレットをご確認され、是非この機会に映像・メディア講座の受講をお勧め致します。　（石原雅史）

新科学Ⅱ　金曜　15:00　プラザ

めまぐるしく進む科学と観測技術



未知の自然現象を克明に解析することを可能にした、情報科学・技術の進化。それを活用して、海洋の研究調査や地殻変動の観測を行い、気候変動の実態解明やより精度の高い地震予知を可能にする研究。私たちが暮らすこの地球では、環境劣化や大規模災害の多発など、人類の未来に不安を抱かせるような問題が起きていて、その解決に向けた科学的なアイディアが求められています。

観測によって問題点を明らかにし、研究によって問題解決のためのアイディアを生み出す。そして新しい技術を開発することで、そのアイディアを形にする。進化する観測技術とそれを用いた研究の深化、その最先端を垣間見ることができる講座です。　（高橋邦晴）

認定 NPO 法人かわさき市民アカデミー
発行人 広報部会　編集人 かわら版編集委員会

川崎市中原区今井南町 28－41
川崎市生涯学習プラザ 3F
電話：044-733-5590　HP は ⇨
FAX：044-722-5761
問合せメールアドレス：info@npoacademy.jp
ホームページ：　http://npoacademy.jp/